

2016年6月11日

## 「平成28年（2016年）熊本地震」による地震災害に関する声明

一般社団法人 日本地質学会

2016年4月14日、16日に発生しました「平成28年（2016年）熊本地震」により、熊本・大分地域の地震災害の犠牲者の方々に心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りすると同時に、被災者の皆様におかれましては、一日も早く静穏な日常生活を取り戻されることをお祈りいたします。

日本地質学会では、地震発生直後より、地質災害委員会を中心に、会員・会員団体が現地に入り、調査結果などの発信に努めてまいりました。今後も、諸学協会等と連携して、「平成28年（2016年）熊本地震」の地球科学的な解明を進めることにより、今後の地震災害や液状化対策に資する基礎地質資料を社会に提供して参ります。特にこれからの多雨期における土砂災害などの二次災害を含めた防災・減災対策に貢献できるよう尽力いたします。

熊本・大分地域は、日本列島の骨格をなす中・古生代の地層群や変成岩類が東西に横断する地質学的に重要な場所にあり、阿蘇火山、九重・別府地域などの火山・熱水活動が活発な地域にあたります。そのため被災地には、大学・研究所はもとより、数多くの博物館や資料館が存在し、これらは我が国の自然史科学の研究教育ならびに地域の社会教育において大きな役割を担ってきました。さらにこれらの“大地の記録・遺産”は、地域において重要な観光資源であると共に、被災地域に存在する多くのジオパークにより、地域活性化・地域貢献の役割を果たしてきました。

日本地質学会では、早い時期から日本古生物学会と協働し、これら地域の重要研究教育施設・団体の被災状況の把握を進めており、多くの施設が甚大な地震災害に遭われた事が判明しました。私どもはこれらの地域が速やかに復旧し、地震発生以前にも増して、その活動が活発となることを切望いたします。そして、そのために必要な支援・協力を、行政を含め関係諸団体と連携しながら、引き続き進めてまいります。

これらの被災状況や復旧状況については、今後、両学会の公式サイトから発信してまいります。